

りこみ、継続的な観察も含めて実施したいものである。この調査後8月、台風15号による洪水で、下・中流域とも流水による破壊で、調査地点付近は侵蝕、礫の堆積などにより大きく姿を変え、植物群落が消え、河床となったり、礫の堆積した裸地と化している。河原での調査が、洪水との関係を見無視してはならないことが、明らかにされたように思われる。

調査地 方格区 汀線からの距離(m) 土地の状況	松 川 下 流 域																
	1981.6.9							7.22									
	I	II	III	IV	V	VI	平均 被度	I	II	III	IV	V	VI	平均 被度			
	5	10	15	20	25	30	頻度 (%)	5	10	15	20	25	30	頻度 (%)			
礫地 砂 礫地 礫地 礫地 礫地 礫地 礫地 砂 礫地 礫地 礫地 礫地 礫地 礫地																	
1 ツルヨシ	+						+	16	1						+	16	
2 タウコギ								+								+	16
3 イシミカワ								+								+	16
4 スギナ								+								+	16
5 オオイタドリ					4		0.6	16	+	3			4		1.2	50	
6 メヒシバ				+			+	16	+		1				+	16	
7 ヒメスイバ		1	1	4			1.0	50		5		5			1.7	33	
8 ヘクソカズラ		4			1	1	1.0	50		2			3	2	1.2	50	
9 ススキ		2	2		2	+	1.0	67		2	3		5	1	1.8	67	
10 ネナシカズラ		1					+	16									
11 ヨモギ			4	+	2	2	1.3	67		1	5	2	3	3	2.3	83	
12 オオマツヨイグサ		1	+	1			+	50		2	+	+			0.5	50	
13 ヒメジョオン			1	1			+	33			2	2			0.6	33	
14 メドハギ			1	+	+	+	+	67			+	1	1	1	0.5	67	
15 エノコログサ										1					+	16	
16 タチヌソフグリ				1			+	16		1					+	16	
17 ヒメムカシヨモギ										1					+	16	
18 オオバコ											1				+	16	
19 ヤエムグラ					1	1	+	33									
20 アキノキリンソウ					1	+	+	16					2	+	16		
21 カラスノエンドウ					1	+	+	16									
22 ヒヨドリバナ					1	+	+	16					1	+	16		
23 ネコハギ										2					+	16	
24 イヌコリヤナギ					3	0.5	16						4	0.6	16		
25																	

図1 松川下流域の測定(6月, 7月)

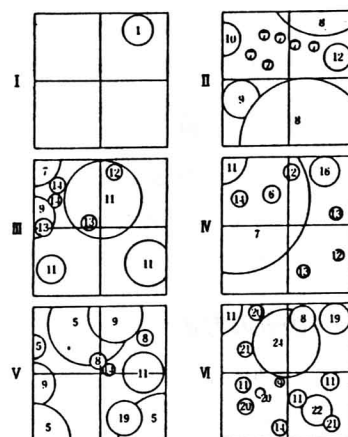


図2 松川下流域の調査(図示法) 6月

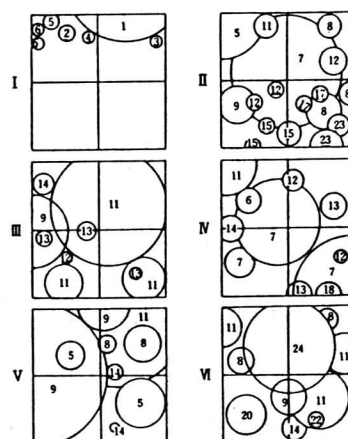


図3 松川下流域の調査(7月)